



2017年12月7日 第2307回例会
12月第1例会

RIテーマ ROTARY: MAKING A DIFFERENCE
「ロータリー:変化をもたらす」

本年度会長テーマ
「共に学び 共に実践を」

「疾病予防と治療月間」

◆会長時間◆

村上会長



師走もはや7日、本日は二十四節気の一つ「大雪」にあたります。これから、年末にかけて何かと慌ただしくなり、酒席も多くなります。皆様には健康に留意され、何事も腹八分目を心掛けていただきますように。

今月は、『疾病予防と治療月間』になっております。

RIでは疾病を予防し、ウイルス拡大を防ぐための医療従事者の能力向上プログラム、疾病予防を支える啓蒙活動・社会動員。非伝染病(NCDS)の発症数や合併症の発症数を低減するための取り組み、疾病予防と治療の分野でキャリア向上を目指す人への奨学金支援など、ロータリアンは、疾病を予防し、健康への認識を高めるために、さまざまな取り組みを実施しています。

広島西ロータリーにおきましても、『疾病予防と治療』について皆様方の関心が高まりますとともにロータリーの取り組みにも、ご理解いただきますことを切に願っております。

■迫田勝明グループガバナー補佐—インター
シティー・ミーティング出席依頼のご挨拶



●会務報告 前橋幹事

※次週14日例会は年次総会となっており、多数のご出席をお願いいたします。

※インターシティー・ミーティングのご案内

※例会終了後、4階「アマリリス」において12月定例理事会を開催いたしますので、理事会メンバーは出席願います。

●委員会報告

※プログラム・出席委員会

出席報告 片山副委員長

本日 (12月7日・木曜日)

会員数	82名	出席者	68名
欠席者	14名	ご来客	2名
ご来賓	5名	ゲスト	0名
		計	75名

前々回 (11月16日・木曜日)

出席率 100%



国際社会奉仕委員会 柴田委員長

今年度、広島西RCは、地区合同グローバル補助金を使った「ボリビア水頭症治療の支援事業」に参加していますが、主管クラブである東広島21RCから、この程無事に支援先のボリビアの銀行に送金された旨の連絡がありましたことをご報告いたします。金額が高額になるということで、3回に分けての送金になるそうですが、これにより今後5年間に渡り、水頭症への支援が継続されます。

同好会報告

紫雀会 片山世話人

11月例会を、11月16日(木)18時より、富士見町の十和田麻雀室にて開催しました。結果は、3位 片山、2位 鈴木君、1位 岡野君となりました。

12月例会は本日、本通りの「マック」にて18時より開催いたしますので宜しくお願ひします。

囲碁同好会 小田世話人

去る2017年12月2日(土)、広島ダイヤモンドホテルにおいて、忘年囲碁兼中央RCとの対抗戦を開催しました。

今回は、中央RCから対抗戦開催の申し入れがあり、初めて開催したもので、西RCからは、現役は尾形君、田中君と小田、OBから北村さん兼池さんが参加しました。中央RCは、4名が参加されました。団体戦は、西RCが9勝6敗で団体優勝しました。個人戦では、北村さんと私が3勝0敗で、年齢により北村さんが優勝、私が準優勝となりました。大会後、山本賢太郎プロを交えて懇親会を開催し、楽しく歓談して今年を締めくくりました。又、来年も西南RCとの対抗戦が2月に開催されますので、多数の参加をお願いします。

会員記念日



12月お誕生日おめでとうございます。

(9名)

隅田君 園尾君 諏訪(昭浩)君
新原君 土井君 大本君 川西君
原君 久保君



スマイルボックス SAA 岡野君

田中君 (自主申告・大枚)

本日(12月7日)早朝、次男に男子が誕生しました。私にとっては5人目の孫で、男子3人、女子2人です。嫁の実家にとっては、100年ぶりの男子誕生で大変喜んでいます。

孫のすこやかな成長を祈念し、出宝します。

新原君 (自主申告・金一封)

去る12月3日、長女 温(ハル)の挙式、披露宴が、ペニンシュラホテル東京で開催されました。

6月に入籍し、ハネムーンは半年先、同居は来年夏以降ということで父親としては、どこで踏ん切りをつけたら良いか分かりませんが、娘の末永い幸福を願って、出宝いたします。ちなみに、長女は亡き隅田義彦さんの大ファンでロータリーの家族会でも、いつもくっついていたのをふと思い出しました。上野(寛)君には、ウェディングステップを教えていただきありがとうございました。

古屋君 (自主申告・金一封)

市民と市政12月1日号のトピックス「障害のある人もない人も・思いやりと支え合いの社会へ」で、私どもすずらん薬局グループの取り組みが紹介されました。

「すべての人に優しい薬局でありたい」の経営理念の一環で、障害のある人でも安心してサービスを受けることができるよう、例えば耳の不自由な人にインターネットを利用した手話同時通訳や、音声文字変換サービスを、また目の不自由な人には文字を音声で伝えられる二次元コードをお薬の説明書に印刷し自宅でいつでも確認できるようなどの対応をしています。

このような取り組みが特別なものではなく、どこでも当たり前に見られる社会になることを願って社員一同研鑽していきたいと思います。

川村君 (自主申告)

この度、広島のプロ吹奏楽団 広島ウインドオーケストラが、シカゴで12月に開催される全米最大の音楽教育カンファレンスに特別招待をされました。

日本の吹奏楽団が招待されること自体は珍しく光栄なことですので、皆様にお知らせします。

(私が楽団の理事をしている関係で、紹介させていただきました。)

●山縣君

朝日新聞の「未来ノート」では、9月からトップアスリートが自らの経験、幼少期にどんな練習をしたのかなど、支えてくれた恩師や友人、未来への夢などを語るシリーズを開始し、野球の大谷投手の次に、山縣亮太さんのことが取り上げられ、その中の11月5日の2回目で、「信じ励ます 伸びた自主性」との表題で、山縣君の教育方針が取り上げられていました。息子が成長してからは、練習に口を出すことはない。ただ、両親とも亮太の最大の理解者でファンという立ち位置で、「お父さんは、おまえのセンスと能力は一番じゃと思う」と励ましてこられたようです。なお、3回目も亮太さんからの感謝のメッセージが述べられていました。今後も亮太選手が活躍されることを祈念して、御出宝をお願いします。

12月19日PM7:00～NHK総合 嵐の相葉君の司会番組「ぐっとスポーツ」で亮太選手が特集されます。ぜひご覧ください。

■卓 話

卓話講師紹介

紹介者 諏訪 昭登君

三保浩一郎氏は1967年東京生まれの広島育ち。広大歯学部卒業後、歯科医院を開業。幼児からオートバイ好きで、17台ものマシーンで20年間モトクロスレース参戦。2011年、残念ながら難病ALSを発症。以後モーターサイクル史研究家として「広島モーターサイクルレース全史」の編集、発行に没頭され、2015年11月、見事に出版されました。私との接点は、私が1958年に設立した「広島ベストライダース」が、未だに戦後日本での本格的クラブマンレースの草分けと語り続けられている浅間高原で開催された「1959年全日本モーターサイクルクラブマンレース」に参戦し、1名が優勝するなど全国に名を馳せたことがあります。その辺りの資料提供をさせていただきました。

本日は三保先生が難病にもくじけることなく、強固な意志で活動されていることに大きな感銘を受けましたのでご紹介いたします。



ALS 恐るるに足らず

～呼吸器を装着した歯科医～

三保 浩一郎 氏

現 職

日本ALS協会広島県支部支部長
広島市歯科医師会保険医療対策部委員

略 歴

1986	広島学院高校卒業
1993	広島大学歯学部卒業・歯科補綴学第二講座入局
2002	「みほ歯科医院」開院
2010	身体の異変に気付く
2011	ALSと確定診断
2012	ALSのため「みほ歯科医院」閉院
2013	胃瘻造設・気管切開・視線入力パソコンと出会う
2014	日本ALS協会広島県支部支部長を拝命
2015	嚥性肺炎を経験・「広島モーターサイクルレース全史」出版
2016	人工呼吸器装着
2017	視線入力パソコンを車椅子に取り付け る事により社会復帰
現在	人工呼吸器を装着しても社会生活が営めることを広く発信中

ALS（筋萎縮性側索硬化症）は年間に10万人あたり1～2人が発症すると言われており、国内に約9000人、広島県内にも200人を超える患者がいる。これだけの患者がいるにもかかわらず、原因不明、治療法なしとされ、難病に指定されている。近年、多くの研究者の努力もあり、原因究明に少しずつ近づいており、治療法の確立が期待されている。症状は運動をつかさどる神経に限定されており、知覚や自律神経には症状が現れない特徴がある。

ALS患者は舌の動きが悪くなることにより構音

障害を起こす例が多い上に、気管切開～人工呼吸器を装着すると全く発声が出来なくなる。声を失ったALS患者はほとんどの場合、上肢にも障害を抱えているため手話や筆談は使えない。一方、視力は奪われることなく、全身の筋肉が動かなくなつても眼球の動きは最後まで確保されるとされている。こういった病気の性質を利用してのコミュニケーション手段の原始的なものとして徳洲会の徳田虎雄氏も使用していた「透明文字盤」があり、最新の方法として「視線入力パソコン」がある。

視線入力パソコンは声を発することは無論のこと、インターネットの閲覧、動画の編集、テレビの視聴、録画、パソコンで操作できる全てを視線だけで操作可能だ。私は一日の大半を視線入力パソコンの前で過ごし、多い日は一万文字近くの文字を入力し、仕事の全てをパソコンで行う。

我が国は優れた医療保険制度もあり、ALSについて言うと世界一の人工呼吸器装着率との事だが、それでも近年の調査によると二割に満たない装着率だという。ALS協会広島県支部でも多くの患者が人工呼吸器を装着する事なく亡くなっている。事前に視線入力パソコンに触れていれば、少なくとも何割かの患者の命は救えていたのではないだろうか。それほどの器材だと私は確信している。

ALSという病気は幸いなことに先人たちの経験から次に起る症状が容易に予見できるので、その心構えと共に準備も可能だ。私は体重80kgもある時期に経口摂取が出来なくなる日を見越して胃瘻を開けたし、気管切開も人工呼吸器装着の2年も前に開けて人工呼吸器の装着に備えた。ALSのほかにも似たような病気や事故によって、頭ははっきりしているのに体が自由にならない方が意外といふ。私も元気な頃に臨床の場で何名かの「寝たきり」あるいは「植物状態」といわれる患者に接してきた。今、自らがこうして病気になってから分かるのだが、知識の不足していた当時の私は

コミュニケーション能力が無いものと決めつけ、「人」として接する事がなかったように思い、後悔の念でいっぱいいた。

ALSという原因不明の病は進行に伴って、次から次へと体の機能を奪っていくが、歩けない脚の代わりに車椅子、摂食嚥下できない口の代わりに胃瘻、動かぬ手の代わりにこの視線入力パソコン、肺の代わりに人工呼吸器と、病状の進行に従い、失った機能を回復するツールが増えるのが病気の特徴だというだけで、一つ一つは義足や義手、歯がない人の入れ歯、と違いはないと考える。



例会風景

●卓話予告

日時	テ　ー　マ
12/21(木)	夜間例会並びに家族同伴懇親会

例会日・木曜日 12:30～13:30
例会場・ANAクラウンプラザホテル広島
会長 村上 智亮
幹事 前橋 寛

事務所・〒730-0011 広島市中区基町6-78
リーガロイヤルホテル広島13F
TEL 082-221-4894・FAX 082-221-4870
E-mail : hwrc@godorc.gr.jp
作成・会報雑誌・広報委員会

広島西RC 検索